



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2002.9月号



天体観察会「ペルセウス座流星群」(8/13~14実施)

ペルセウス座流星群の観察を静岡県函南町にある月光天文台で行いました。真夜中、午前0時から夜が明ける4時近くまで、星空を見つめ、流星を150近くも数えたり、流星の写真撮影を行いました。



体験学習「地形模型を作ろう」(8/7,9実施)

8月7・9日の2日間で行われました。厚さ1mmの板をカッターで切り抜いて、積み重ね地形の模型を作っていくものです。根気よく作業を続け、相模湾や湘南平など5種類の模型ができあがりました。

博物館で作った 夏の思い出



体験学習「縄文土器を作ろう」(7/30,31,8/1,28実施)

博物館から見本として提供された本物の縄文土器3点から、お気に入りを選び、本物をじっくり見ながら作ります。粘土を細いドーナツ状に丸めて乗せ、形を整えていくのですが、不格好になったり、はたまた崩壊したりと、すんなりとはいきません。苦労して本体ができると、お待ちかねの模様描きです。縄目や竹べらを使って模様を入れると、いよいよ縄文土器らしくなってきました。さあ、あとは無事に、割れることなく野焼きが終わるのを待つのみです。



こども観察クラブ「セミの抜け殻調べ」(8/14実施)

観察クラブでは、万田宮ノ前公園に遠征して抜け殻を探集し、博物館に持ち帰って種類やオスメス調べを行いました。四国からおばあさんの家に遊びに来たついでに参加してくれた藤田拓史君は「小学校1年の時からセミに興味を持ちました。2年生の時に羽化の観察をし、4年生から抜け殻調べを始めました。今年は、オスとメスのどちらが早く出てくるかを調べています。博物館の行事に出て、いろいろな種類の抜け殻が見られてよかったです。」と話してくれました。

☆市制70周年記念・博物館25周年記念事業☆

夏期特別展「平塚市考古資料50選」を振り返って

猛暑が続いた夏休み期間でしたが、お陰様で多くの方々に見ていただきました。また、関連事業として記念講演会、スライド映写会、遺跡見学会を行いましたので、いくつか振り返ってみたいと思います。

■記念講演会 8月4日（日）

東海大学教授 近藤英夫先生「考古学と文化財保護法」

大学で考古学を講義され、専門のインダス文明を研究している一方、日本考古学協会で遺跡の保存・保護活動を担当されている先生は、全国の遺跡保護に奔走されています。堅いタイトルでしたが、中身については、「なぜ文化財を保護しなければならないか」を世界の事例を挙げて、大変分かりやすくお話をくださいました。「その地域にとって、大切なものだから守る。そのための法律で、先に法律があるから守るのではない」と力説されました。最終的には、地域の方々が遺跡とか資料をどう評価するかに委ねられるものと考えます。そのためには、その遺跡や遺物のもつ意味を正確に地域の人々に伝えるのが博物館の使命と考えています。



近藤英夫先生

■遺跡を歩く 8月9日（金）・8月16日（金）

今回の特別展に合わせて、市内の遺跡見学を企画しましたが、こんなにも大勢の方が遺跡に興味を持っていることに正直驚きました。快晴で気温が高く、快適とは言えない状況でしたが、2回とも無事終了することができました。出来れば、毎年秋から冬にかけて2回ぐらい、見学会を実施することも、地域の歴史を理解していただけるよい機会になるのではないかと考えさせられました。

■スライド映写会 8月24日（土）

(財)かながわ考古学財団 柏木善治・依田亮一氏

平成13年度の湘南新道関連遺跡の成果を担当された二人の方に大変分かり易く解説していただきました。この調査により、相模国府の実態を検討する材料が多く発見されました。引き続き調査が行われますので、どんな成果が出るのか楽しみに待ちたいと思います。



遺跡を歩く 五領ヶ台公園にて

■アンケートについて

特展室の入り口付近で「あなたが選ぶベスト5」のアンケートを書いていただきました。アンケートの結果は分析次第「あなたと博物館」に掲載する予定ですが、ここでは、選んだ理由や感想の一部を紹介させていただきます。

○平塚市内の10代の女性

きれいですごい。ナイフ形石器、とてもきれいでほしい。

○神奈川県内の20代の女性

全てにおいて歴史を感じることができました。選んだ基準は模様のすばらしさや、現物を見たことの感動に基づいています。

○平塚市内の30代の女性

平塚市内にこんな素敵なお土産があるとは驚きました。女性の目から見た、キレイな物を基準に選びました。

○神奈川県内の40代の男性

時を知る貴重性、重大性を基準に。市内の遺物を時代別に並べると、土地利用の様子が走馬燈のように想像ができる、ロマンを感じる。

○平塚市内の50代の女性

”見る人に、何を訴えているか”を基準に選びました（存在感があって、作り手の心や技などについて考えさせるものがあるもの）。

○神奈川県外の60代の男性

美術的視点から、デザイン・色など、命のつたわってくるものの順に選ばせていただきました。他では見られない視点もいました。

*アンケートにご協力して下さいました方々に厚くお礼申し上げます。

民俗探訪会の試み

民俗探訪会は平成8年度に発足し、ここ3年間は「相模のまつり」をテーマに据え、旧相模國の民俗行事の観察を中心に活動しています。本紙では、今年度の探訪会が取組む3つの新たな試みについて紹介します。

探訪カード 第1の試みは、「探訪カード」です。祭に行くと、お神輿が休む御酒所などに地元の方が大勢集まっています。昔のしきたりや、暮らしのことなど、古老から興味深い話を聞ける機会であり、会員たちもいろいろと質問をします。しかし、それそれが聞いた話を会全体に披露してもらう場をなかなか持てないことを勿体なく感じていました。そこで発案したのが「探訪カード」です。銘々が聞いた話をカードに記入して提出してもらい、それらをまとめて活字にしていけば、個々の情報を会員共有のものにすることができるし、大勢の力を借りればより充実した祭りの見聞記が残せるであろうと考えたのです。

民俗探訪会は現在76名の会員が所属し、常時40名前後が参加する大所帯の会です。多くの人数で調査すれば、それだけ情報の幅が広がり、精度が高まるという利点があります。仮に50名の参加者があったとすると、100の耳目で見聞した情報が集まることになります。一人一人の会員は調査員でもあるのです。カード記入は多少の負担にはなりますが、注意深く祭を観察したり、聞いた話を記録する習慣が身につけられるようになるでしょう。

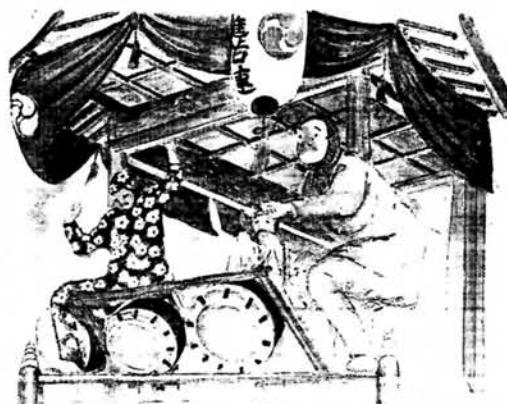
〈探訪カード〉

平成14年7月2日

| | |
|---------|--|
| テーマ | 黄船祭り |
| 場所 | 真鶴 |
| 話し手 | |
| 話の内容 | 表書き第一正式名札 黄船神社船まい 平成14年に國の重要文化財になつたので、県の申請を行ひながら見守る。今朝は寒川神社が見え、毎年変わる神社境内で行われるのは、童体舞といい宗教的な行事を用ひながら、黄船祭りとなり宗教がなくなる。—お祭の世話を終らせる。 |
| ・祭の観察記録 | 向島について 本郷を駆け流すお園の基より、若は一基で海に流れ入れたが、海水で銅かさいたとされる。飾りがて海中に落として、探すの大変に水車から(水車は石製を別れ)今使っているのは木車(木車は運転の)。黄船神社から木車を入れた向島とお庭が、右側は車でお庭屋まで運ぶ。お庭屋のあひみ子をはじめ、本郷の方はお車を移し入れるとお庭屋へ運んでなくなります。その後、お車を |
| スケッチ | 表書き第一正式名札 黄船神社船まい 平成14年に國の重要文化財になつたので、県の申請を行ひながら見守る。今朝は寒川神社が見え、毎年変わる神社境内で行われるのは、童体舞といい宗教的な行事を用ひながら見守る。—お祭の世話を終らせる。 |
| 石仏等 | |
| 感想 | 吉田さんは、13年間の中央を走る(途中は3人乗り)若は中学生から2歳児まで、大人の車を運転する(車の運転の上手な人達)。町の中心で、吉田さんはお車、鉛筆で3年生から4年生(大人)で車を運転する。お車で鉛筆を走らせる子がいました。それによると、吉田さんはお車、鉛筆で3年生から4年生(大人)で車を運転する。 |
| 記録者 | 小山 駿子 |

平塚市博物館 民俗探訪会

カードは休憩時間などの合間に縫って記入し、解散時までに提出してもらいます。それを編集し、次号の「探訪会だより」に見聞記を掲載します。この見聞記は会員の総力の結集です。見知らぬ土地へでければ、多くの新たな知見を得ます。個々が得た情報を共有の財産に積み上げていくことが情報センターとしての博物館の役割であると思います。



津久井町鳥居諏訪神社の祭礼
画 今井輝夫会員

予備調査班 第2の試みは、会員に下見をしてもらうことです。今年度の探訪会は9回の野外活動を予定しており、回ごとに4、5名ずつ会員を割り振って予備調査班を編成し、会員自らが事前準備に当たる体制をとりました。下見の内容は、文献調査から始め、現地へ赴いて祭の概要を確認すること、歩くコースの検討と見どころ調べ、昼食場所や御手洗いの確認などです。そうして得た情報を博物館へ持ち帰り、学芸員と相談して詰めています。また、当日は少し早めに集まって受付、資料配付、引率(旗持ち)役などを受け持っています。

この試みは大成功のようで、上記の事項だけでなく、祭の役員や寺の住職などに話をしてもう段取りをとってくれたり、資料作りや現地解説などにも積極的に関わってくれるなど、期待以上に活躍してくれています。この試みが会員のやりがいにもなっていることを感じ、頼もしく思います。

名札 第3の試みは、首から名札をぶら下げることです。これは、会員同士のコミュニケーションに役立てることと、探訪先で所属を明らかにすることが目的です。名札を下げたことや、予備調査班や分科会のような小グループで活動する機会を増やしたためか、会全体のまとまりがとても良くなってきたように感じます。

分科会 分科会として昨年度から「平塚社寺調査会」を立ち上げ、原則として毎月第1・第3水曜日に活動し、10数名が参加しています。活動内容は、平塚市内の民間信仰の諸相を聞き取りと観察で調べることで、昨年度は神田地区、今年度は城島地区で実施しています。城島地区では旧4か村ごとに分担して調べています。郷土の伝承を記録に残す営みは、ある意味では定例会以上に意義深い活動であり、その成果は後日報告書にまとめる予定です。

博物館カレンダー

＜平成14年9月＞

| | | |
|------|-------------------------------|------|
| 1 日 | 水辺の楽校生きもの調べの会 | 相模川 |
| 4 水 | 民俗探訪調査会「調査報告会」 | 特研室 |
| 5 木 | 展示解説ボランティアの会 | 特研室 |
| 6 金 | 古文書講読会 | 講堂 |
| 7 土 | ★ プラネタリウム「フリートークプログラム」(～10/6) | プラネ室 |
| 8 日 | 地質調査会「大山亜層群2」 | 野外 |
| 11 水 | プラネタリウム学習投影「星座と星の動き」(～3月) | プラネ室 |
| | 博物館実習(～19日) | 博物館 |
| 12 木 | 石仏を調べる会「石仏調査」 | 四之宮 |
| 13 金 | 古文書講読会 | 講堂 |
| 14 土 | ◎漂着物を拾う会 | 虹ヶ浜 |
| | 地質調査会「読書会」 | 特別研 |
| 15 日 | 民俗探訪会「鶴岡八幡宮神幸祭」 | 鎌倉市 |
| | ◎ろばたばなし | 展示室 |
| 18 水 | 裏打ちの会 | 科学室 |
| | 民俗探訪調査会「学習会」 | 特研室 |
| 19 木 | 展示解説ボランティアの会 | 特研室 |
| 20 金 | ★ 寄贈品コーナー「実習生による展示」(～10/30) | 展示室 |
| | 古文書講読会 | 講堂 |
| 21 土 | 天体観察会 | 屋上 |
| 26 木 | 石仏を調べる会「カード整理」 | 特研室 |
| 27 金 | 古文書講読会 | 講堂 |
| 28 土 | 平塚の空襲と戦災を記録する会 | 特研室 |
| | 相模川の生き立ちを探る会「古期外輪山とカルデラ」 | 箱根町 |
| 29 日 | 古代遺跡を探す会 | 土沢 |

＜平成14年10月＞

| | | |
|------|-----------------------------|------|
| 3 木 | 展示解説ボランティアの会 | 特研室 |
| 4 金 | 古文書講読会 | 講堂 |
| 5 土 | ◎考古学入門講座「環境と生業-縄文」 | 講堂 |
| 6 日 | 民俗探訪調査会「豊田・岡崎祭礼調査」 | 市内 |
| | 地質調査会「大山亜層群3」 | 野外 |
| 10 木 | 石仏を調べる会「編集作業」 | 特研室 |
| 11 金 | 古文書講読会 | 講堂 |
| 12 土 | ★ プラネタリウム「第三惑星軌道の旅」(～12/1) | プラネ室 |
| | ◎漂着物を拾う会 | 虹ヶ浜 |
| | 地質調査会「読書会」 | 特別研 |
| | ◎星を見る会「月を見よう」 | 屋上 |
| | 天体観察会 | 屋上 |
| 13 日 | 民俗探訪会「共和のお峰入り」 | 山北町 |
| | 水辺の楽校生きもの調べの会 | 相模川 |
| 16 水 | 裏打ちの会 | 科学室 |
| | 民俗探訪調査会「調査報告会」 | 特研室 |
| | ○ プラネタリウムで宇宙を学ぶ会 | プラネ室 |
| 17 木 | 展示解説ボランティアの会 | 特研室 |
| 18 金 | 古文書講読会 | 講堂 |
| 19 土 | ◎考古学入門講座「環境と生業-弥生」 | 講堂 |
| | ○自然の新聞を作る会「秋の土屋」 | 土屋 |
| 20 日 | ◎ろばたばなし | 展示室 |
| | 相模川の生き立ちを探る会「中央火口丘を見る」 | 箱根町 |
| 24 木 | 石仏を調べる会「石仏調査」 | 真土 |
| 25 金 | 古文書講読会 | 講堂 |
| 26 土 | ☆ 秋期特別展「金目地域から大志を拓く」(～12/8) | 特展室 |
| | 平塚の空襲と戦災を記録する会 | 特研室 |
| | 天体観察会「星の写真」 | 屋上 |
| 27 日 | 古代遺跡を探す会 | 土沢 |
| | ○自然観察ゼミナール「鳥のねぐら」 | 科学室 |

☆：展示（無料） プラネタリウム（観覧料）

○：申込制 ◎：自由参加 無印：会員制

◆博物館の新刊案内◆

『平塚市博物館年報 第25号』(¥500)

『平塚市博物館研究報告 自然と文化 第25号』(¥800)

一寸木肇「相模川で採取されたフタバカクガニ」

川合慶一「2001年4月22日の環水平アーチ」

福田良昭・漂着物を拾う会「平塚市虹ヶ浜海岸に打ち上げられた海産貝類」

森慎一・平塚石材調査グループ「平塚市域での石材調査における石材の利用」

鷹宏道・沢村泰彦「2000, 2001年の太陽黒点」

瀬口真司・加藤賢二「平台遺跡出土の東海・関西より搬入された縄文中期土器」

森慎一「附編 二宮町平台遺跡出土の東海系・近畿系土器の胎土分類」

石材ウォッキング

街中の石材へ

『平塚市博物館資料No.51 平塚市博物館所蔵資料目録VII 一出縄家

所蔵文書一』(¥1000)

『ガイドブック20 石材ウォッキング 街中の石材調べ』(¥1000)



『平塚市考古資料50選』(¥1200)

あなたと博物館 27巻 6号 通算309号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail.muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/